

平成29年度 周南市事務事業評価シート

事務事業コード	911029	事務事業名	コアプラザ管理運営事業			
担当部・課名	鹿野総合支所 地域政策課	評価者 (課長)	潮田 誠	評価責任者 (部長)	兼重 雅洋	

【事業概要】 Plan

第2次まちづくり 総合計画・前期 基本計画におけ る位置づけ	施策コード	900201	分野	9行政経営	事業の分類	(施設等管理運営事業)
	基本施策	2将来を見据えた行政経営			補助・単独の別	単独
	推進施策	(1)行財政改革の推進			会計名	01一般会計

事業の目的 (対象)	来庁者、職員、地域住民	事業の目的 (意図)	コアプラザ鹿野の適切な維持管理を行いながら、利用者の増大を図る。
事業の内容 (手段)	快適な地域の拠点施設となるように維持管理し、利用者の増大に努める。		

【実施内容】 Do

事業 目標	指標名	指標説明	単位	年度	27年度	28年度	29年度
					目標値	実績値	達成度(%)
利用者数	貸館利用者の申請書及び実績報告書による数	人	人	目標値	31,440.0	31,440.0	31,440.0
				実績値	23,056.0	20,320.0	
				達成度(%)	73.3%	64.6%	

事業費	項目	単位	27年度	28年度	29年度(予算)	30年度(予算)	31年度(見込)
	(予算額)	直接事業費	千円	11,569	11,245	11,536	14,305
	うち一財	千円	11,132	10,786	11,120	13,898	
(決算額)	直接事業費	千円	10,738	10,301		対29年度増減理由	対30年度増減理由
	うち一財	千円	10,348	9,890			
	正職員人件費	千円	3,703	3,664			
	人工数	人	0.50	0.50			
	支出コスト	千円	決) 14,441	決) 13,965			

【評価】 Check

課題・問題・評価等	事業開始からの推移	平成21年2月の供用開始から医療、福祉、保険、生涯学習の拠点施設として、地域住民にも認知されてきた。またイベント会場として利用されることもあり、親しみやすい施設となっている。	課題・問題点	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当性 <input type="checkbox"/> 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 効率性 イベント開催などにより一時的な利用者数の向上は見込めるが、継続的な利用となるよう推し進めなければならない。特に、夜間の利用促進を進める必要がある。	
	評価	C	A 目標を達成した(計画どおりに事業を進めた) B 概ね目標を達成した(実施方法等の見直しが必要) C 目標を下回る(大幅な見直しが必要) D 目標を大きく下回る(抜本的な見直し、廃止の検討)	達成度と結びつかない場合の理由	地域の拠点施設として、適正な維持管理に努め、利用者の減少にならないように運営している。しかしながら、利用者の固定化が進み、新規利用者の増加のために新たな試みや新規教室の取組みが望まれる。
	事務事業の方向性	利用率向上の為、各種団体や個人と連携し、体験会の実施や教室などの開催に努め、周知を行っていく。	評価責任者コメント	管理経費については、前年度に引き続き、経費節減を図るとともに、保健・福祉・医療・地域活動の拠点施設としての「コアプラザかの」の利用を促進する。	

【改善】 Action

平成30年度当初予算等での改善結果(平成30年度当初予算への反映など)	備考
利用率向上を目指すとともに、地域の拠点施設であるコアプラザかのの環境美化と適正な維持管理に努める。	

【事務事業を構成する細事業】

No.	細事業名	細事業の目標	細事業の実施内容	コスト(千円)		人工数	
				外部委託の可否	正職員	臨時等	
①	コアプラザかの管理運営事業	経費削減による運営費の削減や利用者数の向上を図る。	エネルギーコストの削減に努め、体験会や教室の開催などにより、利用者へ周知を図る。	否	0.50		
②							
③							
④							
⑤							

平成29年度 周南市事務事業評価シート

事務事業コード	012553	事務事業名	鹿野総合支所管理運営事業費			
担当部・課名	鹿野総合支所 地域政策課	評価者 (課長)	潮田 誠	評価責任者 (部長)	兼重 雅洋	

【事業概要】 Plan

第2次まちづくり 総合計画・前期 基本計画におけ る位置づけ	施策コード	900201	分野	9行政経営	事業の分類	(施設等管理運営事業)
	基本施策	2将来を見据えた行政経営			補助・単独の別	単独
	推進施策	(1)行財政改革の推進			会計名	01一般会計

事業の目的 (対象)	来庁者、職員、地域住民	事業の目的 (意図)	鹿野総合支所の適切な維持管理を行う。
事業の内容 (手段)	住民にとって利用しやすく懇切丁寧な行政窓口でありながら、コスト縮減に努めた総合支所の施設管理を行う。		

【実施内容】 Do

事業 目標	指標名	指標説明	単位	年度	27年度	28年度	29年度	
					目標値	15,482.0	16,438.0	14,515.0
					実績値	14,879.0	14,822.0	
					達成度(%)	96.1%	90.2%	

事業 費	項目	単位	27年度	28年度	29年度(予算)	30年度(予算)	31年度(見込)
	直接事業費	千円	15,482	16,438	14,515	14,498	
	(予算額) うち一財	千円	14,263	15,249	13,331	13,443	
	直接事業費	千円	14,879	14,822		対29年度増減理由	対30年度増減理由
	(決算額) うち一財	千円	13,657	13,659			
	正職員人件費	千円	1,481	1,465			
	人工数	人	0.20	0.20			
	支出コスト	千円	決) 16,360	決) 16,287			

【評価】 Check

課題・問題・評価等	事業開始からの推移	合併後、旧役場が総合支所として存続している。遊休スペースを金融機関に貸与し、総合支所としての事務所を1階に集約し、住民の利便性と施設管理の効率性を高めている。	課題・問題点	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当性 <input type="checkbox"/> 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 効率性 建築後40年余りが経過しており、バリアフリーに対応していない等、利用しにくい施設となっている。しかも耐震性に劣ることから、安心・安全な拠点施設として建物自体の更新が望まれる。
	評価	B	A 目標を達成した(計画どおりに事業を進めた) B 概ね目標を達成した(実施方法等の見直しが必要) C 目標を下回る(大幅な見直しが必要) D 目標を大きく下回る(抜本的な見直し、廃止の検討)	達成度と結びつかない場合の理由
	事務事業の方向性	施設管理費について、委託業務の見直しや光熱水費のエネルギー削減などに努め、維持経費を縮減していく。	評価責任者コメント	管理経費については、前年度に引き続き、経費節減を図るとともに、総合支所窓口の充実に取り組む。

【改善】 Action

平成30年度当初予算等での改善結果(平成30年度当初予算への反映など)	備考
来庁しやすい総合支所を目指し、環境美化に努める。	

【事務事業を構成する細事業】

No.	細事業名	細事業の目標	細事業の実施内容	コスト(千円)		人工数	
				外部委託の可否		正職員	臨時等
①	鹿野総合支所管理運営事業	維持管理費の縮減	エネルギーのコスト縮減	否			
②							
③							
④							
⑤							

平成29年度 周南市事務事業評価シート

事務事業コード	012502	事務事業名	鹿野総合支所整備検討事業			
担当部・課名	鹿野総合支所 地域政策課	評価者 (課長)	潮田 誠	評価責任者 (部長)	兼重 雅洋	

【事業概要】 Plan

第2次まちづくり 総合計画・前期 基本計画におけ る位置づけ	施策コード	900201	分野	9行政経営	事業の分類	(施設等整備事業)
	基本施策	2将来を見据えた行政経営			補助・単独の別	単独
	推進施策	(1)行財政改革の推進			会計名	01一般会計

事業の目的 (対象)	鹿野総合支所の施設整備に向けた住民との合意形成。	事業の目的 (意図)	将来的な鹿野総合支所の施設整備に向け、安心・安全な地域の拠点施設として整備の方向性を強める。
事業の内容 (手段)	市民コンセンサスを得る方法として、各地域や集落に出向き、総合支所の整備方法や将来への方向性を丁寧に説明していく。		

【実施内容】 Do

事業 目標	指標名	指標説明	単位	年度	27年度	28年度	29年度
					目標値	実績値	達成度(%)
住民との合意形成		鹿野総合支所の施設整備について住民と合意形成する。	式	27年度	—	1.0	1.0
				28年度	—	0.0	
				29年度	—	0.0%	

事業費	項目	単位	27年度	28年度	29年度(予算)	30年度(予算)	31年度(見込)
	(予算額)	直接事業費	千円	—	500	—	—
うち一財		千円	—	500	—	—	—
(決算額)	直接事業費	千円	—	269		対29年度増減理由	対30年度増減理由
	うち一財	千円	—	269			
	正職員人件費	千円	—	0			
	人工数	人	—	—	—		
	支出コスト	千円	—	決) 269			

【評価】 Check

課題・問題・評価等	事業開始からの推移	平成26年度に4案の整備方法をまとめた基本方針を策定した。27年度からは住民や関係機関との協議・調整を重ね、28年度には住民との協議を更に深めるために、ワークショップの手法を用いた意見集約に努めてきた。	課題・問題点	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 有効性 <input type="checkbox"/> 効率性 住民との協議・調整を進めているが、住民感情を二分させることもできず、妥協点を模索するべく丁寧かつ根気よく説明することが重要と考える。
	評価	C	A 目標を達成した(計画どおりに事業を進めた) B 概ね目標を達成した(実施方法等の見直しが必要) C 目標を下回る(大幅な見直しが必要) D 目標を大きく下回る(抜本的な見直し、廃止の検討)	講演会やワークショップなど住民との調整は十分に行ってきたが、参加者が少数であったことなどに起因して、十分な意見集約と合意を得ることができなかった。
	事務事業の方向性	基本方針の4案から整備方法を絞り込む必要がある。公共施設再配置計画や将来的な住民の利便性などを考慮して丁寧な説明を実施する。	評価責任者コメント	鹿野総合支所の施設整備が、将来のまちづくりに繋がるように、丁寧かつ根気よく説明を実施し、住民との合意形成を図る。

【改善】 Action

平成30年度当初予算等での改善結果(平成30年度当初予算への反映など)	備考
平成30年2月に方針決定をしたことから、平成30年度については、地域住民に対する丁寧な方針説明に時間を要することとなる。今後は、住民への説明責任を果たし、必要な各種調査経費を予算で対応することとなる。	

【事務事業を構成する細事業】

No.	細事業名	細事業の目標	細事業の実施内容	コスト(千円)		人工数	
				外部委託の可否	正職員	臨時等	
①	鹿野総合支所施設整備検討事業	整備方法や整備場所についての合意形成	施設整備の方向性を絞り込み、住民に対し、地域に赴くなどして丁寧な説明を実施する。	否			
②							
③							
④							
⑤							